

お薬手帳の情報充実のために

本店
○江黒ひろ美

【はじめに】

日ごろからお薬手帳を正しく利用することにより、患者は様々な場面で適切な医療を受けることができる。特に緊急時など、医療従事者同士の連携をスムーズに行うことができない環境の下では、患者が自らの正確な情報を持ち歩くことが患者自身を守るために有益であると考えられる。にもかかわらず、多くの患者のお薬手帳の情報は不十分なものと予測できた。そのため、今回それを補うための“お薬手帳情報カード”というツールを作成した。カードを導入することで、お薬手帳の活用に如何に寄与できるかを考察した。

【方法】

2013/7/1 より、若松町店、河田町店(閉店の為 2013/6/20-2013/6/29 まで配布)、女子医大通り店、第二女子医大通り店、本店の5店舗にて、作成したお薬手帳情報カードを患者へ配布し、利用方法の説明を行った。

2013/8/26-2013/9/14 に上記5店舗の薬剤師へアンケート調査を行い、薬剤師のお薬手帳に対する意識の度合や、期間内に配布した患者からの反応などを集計した。

【結果】

お薬手帳情報カードを利用することにより、患者情報欄の存在と重要性についてスタッフに再確認してもらうことができた。また患者に対して、患者情報欄の存在をアピールすることができ、カード配布時には概ね好意的な反応を得られた。しかしながらその重要性が全ての患者に伝わっているとは言えず、カード内容の記載に至らない例も見受けられた。そのような中、複数のミキ薬局を利用する可能性がある患者の多くに、カードが初回質問票の代わりとして利用できることをメリットと感じてもらうことができた。

【考察】

お薬手帳情報カードを導入することにより、患者情報欄への記載が確実に進みつつある。引き続きお薬手帳の効果的な利用を促進するために、お薬手帳情報カードの配布を続けていくとともに、記載していない患者に必要性を認識してもらえよう、配布した後もアプローチを続けていくことが重要となる。お薬手帳情報カードがより使いやすいツールとなるよう、今後も検討を重ねていく。